

# 科目区分：外国語科目（ドイツ語）

授業科目名	ドイツ語					学期	曜日	校時
英語名	German							
担当 教官名	濱崎 一敏	単位数	1単位	必修 選択	必修	後期	火曜日	1校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>ドイツ語文法の授業です。文法の理解、ドイツ人吹きこみのカセット・テープを用いた発音練習、そして練習問題にも取り組みます。辞書をひきこなせる力を目標とし、日常会話の初歩も練習します。</p> <p>もうひとつ、ドイツ語（外国語）習得の大事なポイントは、比較文化論的にドイツ（外国）を知っておくことです。文化的（人の生きざまの）諸事象、制度、コミュニケーション（人のやりとり、討論など）等々につき、必要に応じ資料を配布するなどして、お話しします。あわせて、可能なかぎり、わが日本の社会、文化、教育、政治なども考えてみましょう。</p> <p>学生2-3人のグループ分けをして自主的・自立的な研究作業をうながすなど、一方的、受動的な授業にならないように配慮もします。時間に余裕があれば、ドイツのドキュメンタリー、名作映画なども上映鑑賞します。ニコニコできるような、有意義で楽しい授業にしたいものです。</p>								
テキスト、教材等								
火曜日 校時 L: 松本嘉久 著 『読むためのドイツ文法』（2004年、朝日出版社）								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
L 1 2	中間試験、定期試験、授業への参加状況（「テキスト・辞書忘れ」「遅刻」などは「欠席」。出欠調査は毎校時）を総合して評価します。100点満点のうち、ほぼ7割を試験成績で、残りほぼ3割を「授業への参加状況」で、あわせて厳正に評価します。							
授業計画								
<p>初修の外国語ですから、発音練習に重点を起きます。また、各品詞がもっている形態と機能について学んでいきます。動詞、名詞、冠詞、形容詞など、ドイツ語には形が変化するものが多いのですが、言語系統の起源を考えてみますと「インド・ヨーロッパ語族」に属し、英語とは「兄弟言語」にあたります。両者には文法といい語彙といい共通点が多々ありますから、英語を一通り習得してきたみなさんにとっては学びやすい言語だと思います。</p> <p>後期に学ぶのはほぼ以下のとおりです。過去形、完了形、未来形、関係代名詞、受動態、接続法などなど。</p> <p>再度強調しておきますが、外国語の習得は単に技術的に語彙や文法を丸暗記することではありません。言葉はその国の歴史、思想、制度、包括的なシステムを内包しています。これを「文化の総体」と称することもできるかと思いますが、ドイツの「神」は日本のそれとは異なります。ドイツの「大学」は歴史的にみても構成された制度においても日本の「大学」とはおおきく違います。こうした種々の相違点に注目していく姿勢がとても大切だと思います。</p>								
* オフィスアワー：在室中は可（上記「教官研究室」欄参照のこと）								